

システム開発における要求分析研修のご案内

Tech Fun株式会社



- システム開発においては、次のような問題がいつも指摘されます
 - 顧客の不満
 - 思った通りにできていない
 - バグが多い
 - 性能が出ない
 - 開発会社の不満
 - 顧客は技術が分かっていない
 - 仕様がはっきりしない
 - 仕様がコロコロ変わる
 - 後から言われても困る

- このような状況の経験者の多くは、要求分析から要件定義工程が曖昧だった、きっちりやっておくべきだった、と反省しています

- 今回は、この工程の作業を正確に漏れなく実施できるようになる研修をご提案いたします

- 勘と経験に頼っていた要求分析を、7要素法で手順化して実施できます
 - 7要素法は、ソフトシステム方法論（SSM）のCATWOE分析とIPAの非機能要求グレードを融合させた手法です
- 受発注の関係を構築した研修を行うので、発注者（顧客）と受注者（開発者）双方の立場を理解した要求分析ができます
- 要件定義書からのテスト項目作成演習により、要件定義の完成度を確認できます

■ 目標

- 要件定義について一般的な手法を理解し、既存の要件定義書の過不足を指摘できる
- 標準的な要件定義書を作成できる
- 自分たちの要件定義書の問題点に気づき、どうすればよいかを考えることができる

■ 方針

- 教えることよりも質問をして気づいてもらうことに重点を置く
- チームによる演習形式で受講者自らが知恵を出し合って気づく研修とする
- チーム間で受発注の関係を作り、立場の違いも理解できるようにする

■ 構成と進め方

- 1日6時間（10時～17時）の研修を2日間で構成する
- 1チーム5名程度で構成するが、各自が考えることに重点をおき、個人作業の後、チーム内で議論し、まとめ上げることでより深く考える研修とする
- 議論した結果は経緯も含めて必ず記録として残すように指導する

■ 教材

- ずっと受けたかった要求分析の基礎研修（翔泳社）※受講料に含む

■ 評価方法

- 研修開始時に10分程度の基礎知識の確認テストを行い、基本的な技術レベルを評価する
- 気づきシートで、受講者、講師双方がスキルの向上度を評価する
 - 受講者は受講中に気づきシートを記入する
 - 講師は、翌日気づき内容に対するフィードバックを行う
 - 受講者は終了時に気づきを振り返りまとめる
 - 終了時の気づきのまとめに自己評価も記入できるようにする
- 成果物を品質の観点から評価する

所属: 開発2部 氏名: 田中春男 月日: 9月24日		
種別	気づき	備考
2	開発会社から提出される見積りをチェックできるようになりたい。	
1	システム全体をイメージで考えると、要件定義書の問題点が見えてきた。	
2	実際のプロジェクト終了後、開発前で見積りと結果との比較から、次回以降の見積りに活かすことが大切だと思う。	
2,3	今回の見積りやリスク予測の方法を、今取り組んでいるプロジェクトに適用してみようと思う。	
4	先輩の方のプロジェクト管理に関する経験談を聞きたい。	

(種別) 1:要件定義 2:見積り 3:リスク予測 4:その他

■ 第1部（導入） 10:00～12:00

□ オリエンテーション（30分）

- 研修の進め方
- 基礎知識の確認テストと答合わせ
- 受講者の課題認識の確認

□ 講義（60分）

- ソフトウェア開発プロセスとQCD
- 要件定義に用いるDFD等基本的なチャートの考え方と書き方

□ 事例検討（30分）

- 社内のソフトウェア開発に関する問題事例とその原因について議論
- 事例検討結果の発表

■ 第2部（要件定義書作成） 13:00～17:00

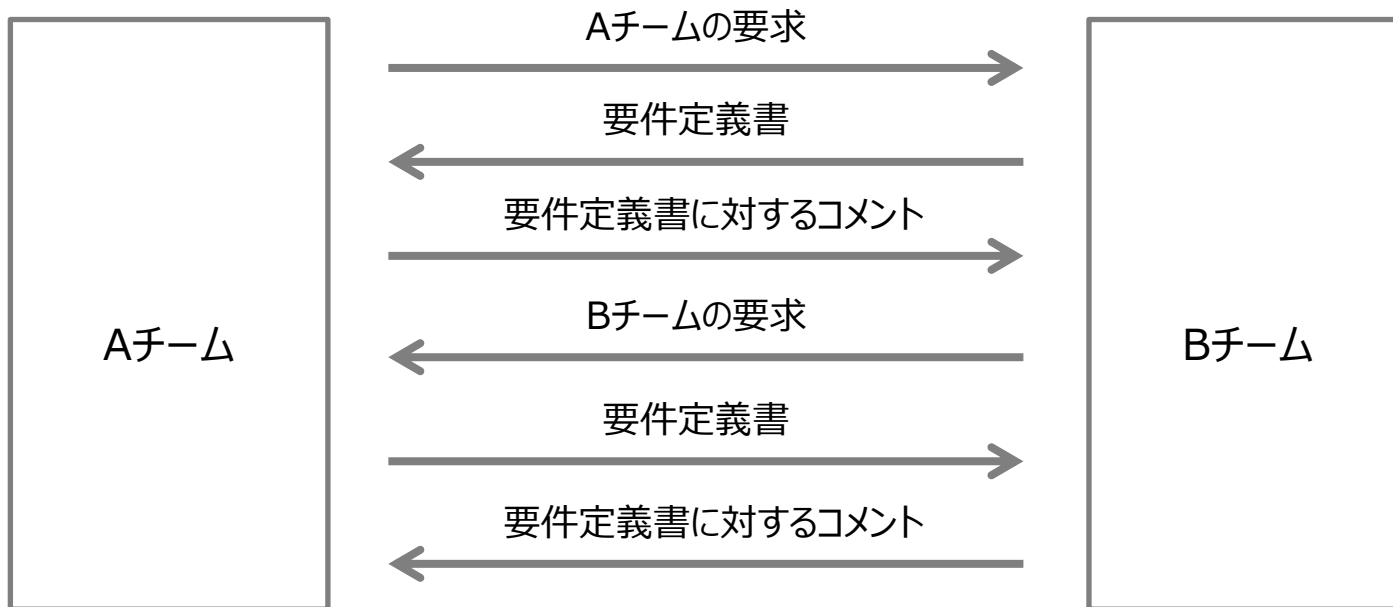
□ 講義（60分）

- 要求分析、要求定義、要件分析、要件定義
- 機能要求・非機能要求
- 要件定義書の構成

□ 演習（60分）

- 講師が提示する「決裁文書配信システム」の概要を基に要求定義書を作成し、他チームに提示（発注）
- 要求を受け（受注）、内容についてヒアリングを実施

- 演習 (120分)
 - 要件定義書を作成
 - 受発注の関係に基づいて要件定義書をレビュー (質疑)
 - レビュー結果は、コメント票に記録



■ 第3部（要件定義書見直し） 10:00～12:00

- 前日のフィードバック（10分）
- 講義（50分）
 - ・ 代表的な要求分析手法（SSM、マルチビュー分析）
 - ・ 非機能要求グレード
- 演習（60分）
 - ・ 7要素法による要求分析

■ 第4部（要件定義書修正） 13:00～17:00

- 発表（30分）
 - ・ 検討結果の発表と質疑
- 演習（120分）
 - ・ 非機能要求検討
 - ・ 要件定義書修正
- 演習（30分）
 - ・ 要件定義書からテスト項目作成
- 発表（40分）
 - ・ 成果発表と質疑
- まとめ（20分）
 - ・ 気づきの振り返り、講評

■ 黒田幸明

- 株式会社サイバー創研 教育研修事業部門長
- 主に第1部、第2部を担当

■ 坂口勝章

- 株式会社サイバー創研 教育研修事業部門主幹コンサルタント
- 主に第3部、第4部を担当

■ 基本情報

- 研修開催日 : 10名様よりご希望の日程にて随時開催 ※2日間の研修となります
- 受講時間 : 10:00～17:00 (昼休憩 12:00～13:00 中休憩 適宜)
- 受講形式 : 座学とチームによる演習
- 受講料 : 5万2,500円 (1名・税込)
- 定員 : 15名
- 請求支払関連 : 受講終了後にご請求をさせていただき、翌月末日までに指定口座にご入金いただきます。お申し込み後のキャンセルはいかなる理由でもお受けできませんので、ご了承ください。
- 申込方法 : 下記ホームページの申込専用フォームよりお申し込み下さい。
お申込みは10名様から承ります。

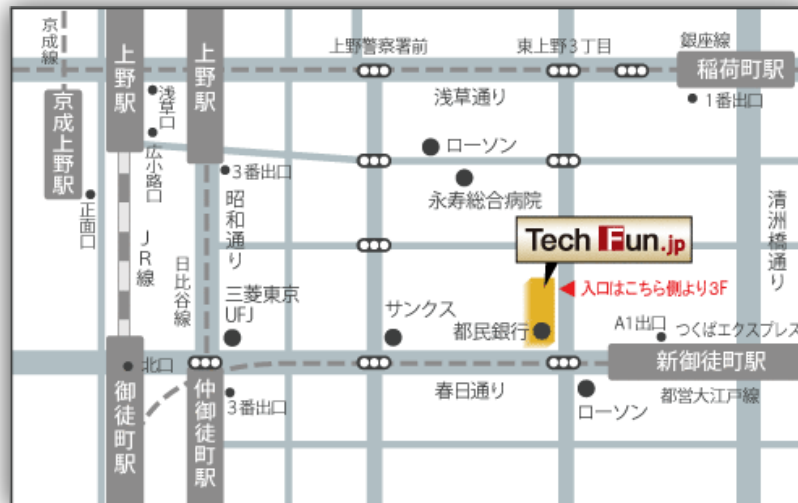
お申込専用フォームはこちら <https://techfun.jp/systemanalysisform.html>

■ お問い合わせ先

Tech Fun.jp (テックファン.jp) 【運営会社：Tech Fun株式会社】 担当／永山

- フリーダイヤル：0120-573-561 ※携帯・PHSからもご利用になれます。
- お問合せ営業時間：平日 10:00～19:00 (定休日：土日祝祭日)

■ アクセス



- ・都営大江戸線・つくばエクスプレス 新御徒町駅
A1出口より徒歩1分
- ・東京メトロ日比谷線 仲御徒町駅 3番出口より徒歩4分
- ・JR各線 御徒町駅 北口より徒歩5分
- ・東京メトロ銀座線 稲荷町駅 1番出口より徒歩6分
- ・京成線 京成上野駅 正面口より徒歩10分
- ・JR各線 上野駅 浅草口・広小路口より徒歩10分

〒110-0015 東京都台東区東上野1-7-15 野村不動産東上野ビル3階